

平成20年度 徳島県スポーツ振興審議会 議事録

I 日時

平成21年3月24日(火) 午後2時から4時30分まで

II 場所

県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】15名中11名出席

青木泰斗委員・大西真知子委員・佐藤充宏委員・関本真美委員

竹林義浩委員・田中泰斗委員・田中俊夫委員・豊永陽子委員・長瀬照明委員

松岡優委員・村山一行委員

【事務局】文化スポーツ立県局長・県民スポーツ課長ほか

教育委員会・体育健康課班長ほか

IV 次第

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 会長・副会長選任

5 議題

(1) スポーツ振興の推進体制について

(2) 平成21年度主要施策について

① 生涯スポーツの振興について

② 競技スポーツの振興について

③ 学校体育の推進について

(3) その他

6 閉会

《配付資料》

説明補助資料

徳島県スポーツ振興基本計画

とくしまスポーツ憲章リーフレット

子どもの体力向上地域連携強化事業 報告書

V 議事録

事務局 (資料確認・出席者人数の確認)

局長 (あいさつ)

事務局 (会長・副会長の選任)

会長に村山一行徳島県体育協会専務理事が選任され、
副会長に佐藤充宏徳島大学総合科学部教授が選任された。

事務局 (会長が議長となる旨の説明)

会長 本会の議長を務めさせていただきます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。
まず、始めに、議題(1)「スポーツ振興の推進体制について」事務局から説明をお願いします。

事務局 (1ページの「スポーツ振興施策体系」により説明)

会長 ただ今の、事務局からの説明について、ご質問、ご意見はございますか。

ないようでしたら、続きまして、議題(2)の「平成21年度主要施策について」について事務局から説明を聞いた後、それぞれの施策と併せてご意見をいただきたいと思
います。まず、①の「生涯スポーツの振興について」事務局から説明してください。

事務局 (2ページの「生涯スポーツの振興について」について説明)

会長 生涯スポーツの振興についてご説明いただきました。私から質問ですが、地域ス
ポーツの振興として行った「地域スポーツ指導者育成事業」は、地域で指導できるス
ポーツリーダーを養成する内容であり、若い指導者も参加したと聞いていますが、受講さ
れた人数や期待される効果等について詳しく説明をお願いします。

事務局 約100名の受講者で行いました。応募に関しては、新聞等に掲載したところ1
50名を越えて応募があり、打ち切りを行い次回に受講していただく予定です。新聞を
見て来ていただいた人は、小さなこどもを持つお母さんであったり、保育所や幼稚園の
先生であったりと若い年代からの希望がありました。カリキュラムについては、身体の
構造や実技を含め2日間実施いたしました。

委員 県民のスポーツに関する意識と行動のところでスポーツ実施率の表があるが本県
の糖尿病等の問題もあり、スポーツ実施率が他県と比べてどの位置にあるのかという点
と県内の総合型地域スポーツクラブを育成することで、成人の週一回以上のスポーツ実
施率50%を越えることができるのかということについて説明をお願いします。

事務局 平成18年度の調査では、全国平均が平成18年度の調査では、44.4%です。
やはり、20代、30代の実施率が少なく、全国的に見ても、特に20代の女性が30.
5%、30代の男性が26.4%という結果が出ているが、50代、60代では、50
%を越えています。

総合型地域スポーツクラブの活動によって、これが上がるのかということですが、ス

スポーツをされていない人が「何がしたいのか」などのニーズ調査をする必要があると考えます。スポーツと聞いただけで敬遠される方もおいでますので、スポーツに関心がなかった人達へどうアプローチを行っていくか、とか、スポーツ＝競技というイメージを変えてアピールしていく必要があると考えます。

また、今年度から始めた親子を対象としたイベント「ファミスポSHOWカーニバル」をきっかけづくりの場として今後もスポーツ振興につなげていきたいと考えています。

会 長 総合型地域スポーツクラブで実施される予定である、「地域スポーツクラブフィットネス事業」について意見をお願いしたいと思います。

委 員 スポーツクラブに関わるものとしては、ありがたいなと思います。

地域の方に総合型地域スポーツクラブ活動全体で呼びかけたり理解を求めたりする時には、「スポーツ」だけでなく「健康」をも切り口に関わってきました。また、健康づくりで町づくりをしようと言うことをキャッチフレーズにしてきました。地域に対する役割や機能を充実していかないとスポーツクラブの継続は難しいと思うので、健康についての事業も行っていくことが重要ではないかと考えています。そして、健康運動指導士の資格取得への支援を行っていただけることについても、人材育成の面においても、ありがたいと思います。

会 長 「いけだスポーツクラブ」は県内の総合型地域スポーツクラブの中でも1、2のスポーツクラブで、クラブへの参加率も高く、内容も豊富ですが、他の総合型地域スポーツクラブでは、人材の確保や各教室、指導者等の問題があると考えます。その点について、ご意見をいただけますでしょうか。

委 員 健康づくりのための運動や生活習慣病予防を個人個人が行うには限界があります。県内の総合型地域スポーツクラブの組織の力をかりると運動を継続できるし、スポーツクラブが拠点となり健康づくりの実践の場として徳島ならではの良い例が作れたらと考えています。徳島の文化や地域性重視しながら健康づくりができたらと思うが、効果の面では、難しい面があるので、今後の検討課題だと考えています。

会 長 総合型地域スポーツクラブの中で子どもから高齢者まで、スポーツするだけでなく、健康も重視していく必要があります、これから求められるし、とても大切であると思います。健康に不安がある人や悩みがある人は多いと思うので、各市町村で総合型地域スポーツクラブが医師会と連携を取って週に1回か月に1回スポーツクラブに医者がおり、健康相談ができることが理想と思うが、現実には難しいのかもしれないのですが、その点についてご意見をお願いします。

委 員 特定健診を医療機関で行っていますが成果を出すことは難しいです。運動して成果を出すとなっていますが、現場では困っているのではないのでしょうか。医師会としても、評価の視点はわかっている、しかし、どこと連携すればよいのかがわかっていない

ので、運動を行える拠点は求められていると思います。

会 長 総合型地域スポーツクラブは地域で活動していますが、地域スポーツには拠点が必要であります。拠点としてはクラブハウスが必要で、研修室とか会議室とかトレーニング室等、スポーツ活動や健康づくりを行うにもそういった施設を備えた拠点が重要になると思うので、県の方でも視点をもち、今後検討お願いします。

では、次に②の「競技スポーツの振興について」事務局から説明をお願いします。

事務局 （5 ページの「競技スポーツの振興について」説明）

会 長 では、「競技スポーツの振興について」何かご意見はございませんでしょうか。

委 員 水泳競技の指導の経験から言うと、低年齢化・スピード化が進んでおり、昔は小学生では強化合宿は行わなかったが、現在小学5、6年から合宿も行っているような状況です。水泳競技ではジュニアからの養成が非常に重要となります。しかし、商業プールにおいて問題となってくるのが、経済的な問題であり金銭的に余裕のある子どもでないと、そういった練習環境で強化出来ないということがあります。このことが、スポーツをする子としない子の2局化に影響を与えているのではと思っており、そういった問題に対応するような支援も必要なのではないでしょうか。

また、指導者の高齢化も深刻で、なかなか若手の指導者が育っていないところが今後の問題でもあります。

委 員 「徳島育ち競技力向上プロジェクト」は大変ありがたい事業だと思います。それは、競技力向上のためには小さいうちから養成することが必要ですし、多様なレベルの選手と一緒に練習することによって、トップアスリートにあこがれ、それを目標にして、最初は見よう見まねで頑張るのだと思います。幸い、投てき競技については、県外からも選手が集まるような環境が作れているので、このような環境が他の競技でも出来るようになっていきたいと思います。

委 員 徳島のお家芸を見るとライフルや馬術などの個人競技がありますが、団体競技のお家芸が一つ欲しいと思います。赴任先の長崎や大阪でも競技力の向上の取組を見てきました。大阪などの都市圏は行政が放っておいても企業などのサポートで自然と強化されていますが、地方はいろいろと苦労しながら強化対策をとられています。そういった他県との意見交換を積極的にやられて、徳島が目指すべき県の状況や競技力向上施策を視察し研究するのもいいのではと思います。また、徳島と言ったら「このスポーツ」というようなお家芸スポーツの拡大、育成が必要なのではないかと思っています。中高一貫指導の導入や、新しい視点での競技力向上対策が必要だと思います。

会 長 では、続いて3つ目の「学校体育の推進について」事務局から説明をお願いします。

す。

事務局（8ページの「学校体育の推進について」説明）

会長 では、ここで以前の2つの施策についての説明も併せて、ご提言をいただきたいと思いますが、インストラクターとして多くの地域の教室を巡っておられる委員の方からのご意見は何かないでしょうか。

委員 「地域スポーツ指導者育成事業」も受講しましたが、指導内容の均質化と充実が求められるのではないかと印象を受けました。本格的にスポーツリーダーを育てるためには50時間ぐらいのカリキュラムが必要だと思います。

会長 かつて子どもの頃小さく新聞に名前が載っただけでも非常にうれしく、又頑張ろうという意欲がわいてきて、また頑張ったという経験がありますが、そういう面からマスコミは競技スポーツの向上には大きな関わりがあると思われれます。本県の新聞におきましては、非常にスポーツを重点的に取り扱っていただいておりますが、そのようなお立場から何かご意見はございませんでしょうか。

委員 新聞でスポーツ大会の結果報告やヴォルティスの勝敗などを掲載していますが、やはり国体の順位は、都道府県のゼッケン番号である37位ぐらいにはなって欲しいと思います。

委員 スポーツができる人、できない人の2局化が最近顕著です。現在、体力測定等のデータは平均値のみが出されていますが、2局化を裏付ける両者の端（出来る人）と端（出来ない人）のデータを（専門家としては、）見て分析する必要があると思うのですが、データを出すことは可能でしょうか。また、学校体育についての説明については、ダンスの必修化が言われていましたが、余り馴染みのない領域だとも思いますので、もっと馴染みやすいものにしたらいいのではと思います。

委員 運動部活動の充実というところで、指導者の研修とか指導技術の向上のための指導者の研修が必要になってくると思うのですが、中学校の場合、指導者の高齢化というよりもほとんどが管理職になっており、特定競技に直接関わるのが組織運営上難しくなります。若い指導者が育ってきているかということ、教員の採用が極めて少ない中で、体育専門でない先生が見よう見まねで部活動を指導しています。これでは駄目だということで、百数十名の外部指導者に頼っているのが現状であります。ジュニアの選手を育てるためには、そういった運動能力を持った先生を採用する必要があります。機会があれば体育協会の会長である知事にも伝えていただきたいと思います。

副会長 三本柱の中で、共通した事があるのではと考えています。今まで培ってきたことを次の世代にどうつないでいくかという仕組みづくりが今回の振興策の中に見えてこな

いといけないと思います。そこの部分は、言葉で言えば人づくりなんです、スポーツ振興基本計画が立てられてちょうど5年ほど経ちますし、今の現状をしっかりと把握した上で、それぞれの三本柱の中で、具体的に5年後どうなるのか、中山間では音を立てて人口の構成が変わりつつある中で、今までやってきたスポーツをどう支えるのかを含めて考えていかなければいけない。真剣に考えて答を見つけていかななくてはいけない時期にきていると思います。

それと、もう一つは県もスポーツの分野が知事部局に入って考えられるようになったのですが、そういった意味では、昔は「するスポーツ」だけで良かったが、今日も皆さんのご意見をお聞きすると、どう支えるか、みんなが元気をもらえるような仕組みづくり、スポーツを通じていろいろな分野の方々との連携を取りながら、事業の計画・評価を行い、みんなと肩を並べて事業をやっているっていただきたいと思います。

会 長 ありがとうございます。今仕組みづくりについてお話をいただきました。やはり人を育てる、選手、指導者の両方ともですが、計画的に行う仕組みづくりが必要です。特に指導者の場合は根気強く育てていかないといけない。養成講習会にしても指導者がこの講習会に参加して良かったと思えるような講習会を是非やって欲しいと思います。いずれにしても事務局において、今日報告をいただいた3つのスポーツ振興について、仕組みを創ってそれを実践することをお願いをしたいと思います。「とくしまスポーツ憲章」というものが、前回のスポーツ振興審議会で作ったが、これが県民の皆さん、中学生、高校生にどれだけ周知できているかは、ちょっと解りにくいところがありますので、是非、学校、競技団体に周知をして欲しい。体育協会でもPRをしておりますが、事務局の方でも積極的に周知をお願いいたします。

では、これで審議を終了させていただきます。皆様ご協力ありがとうございました。

事務局 熱心なご審議、ありがとうございました。ここでスポーツ振興の事務を行う部局を代表いたしまして、文化スポーツ立県局長より、ご挨拶申し上げます。

局 長 2時間にわたりまして熱心なご提言、提案を頂戴いたしまして本当にありがとうございました。昨年4月にスポーツに関する事務が知事部局に移管されましたが、20年度の予算は、教育委員会の時に組んだ予算でありまして、実質的なまさに知事直轄の局として21年度はスタートの年となっております。従いまして、予算についても昨年とは大幅に視点も変えさせていただいたところがございます。ですから事務局としては、議論を重ねていろんな方々の意見を聞きながら、来年度の事業計画を策定したところではありますが、決して十分なものではないと思っております。今後とも事業執行にあたりましては、皆様方の所にまいるまして、ご意見をいただくことものあろうかと思っております。先ほど会長もおっしゃられたように「とくしまスポーツ憲章」の4つの目標というものは、それぞれ相関関係にあると思います。それぞれが互いに関連しながら、地域コミュニティの醸成、ひいては地域の活性化に繋がるような、そういうものにスポーツを中心として地域が元気になる、そんな大きな目標に向かって頑張りたいと思っております。今後ともいろいろとご提言いただきましたらと思っておりますので、ご協力をいただき

ますようお願い申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。